

教育広報

南 会

編集・発行 福島県教育庁南会津教育事務所  
 発行責任者 佐藤 智晃  
 編集協力 市町村教委連絡協議会南会津支会  
 南会津郡小中学校長協議会



## 『よし！柿の木を切ろう！』

下郷町教育委員会教育長

湯田 嘉朗

今年度は、東北地方を中心にツキノワグマによる人身被害が最多を記録しており、当町においても、昨年7月には河川敷で被害が発生したほか、目撃情報も相次ぎ防災無線による注意喚起を実施していました。また、小学校近辺での目撃情報が相次いだ際には、周辺パトロールの強化や児童の安全確保を最優先とした「引き渡し下校」を実施するなどの対応を講じてまいりました。

なぜ今、これほどまでにクマが人里に現れるのでしょうか。その背景には、山での餌不足に加え、山林の変容と「里山」の機能低下という構造的な問題が潜んでいます。かつて「里山」は、人と野生動物の活動圏を分ける「緩衝地帯」として機能していましたが、人の手が入りにくくなったことで境界が曖昧になり、クマが容易に生活圏に侵入できる環境が生まれてしまったようです。

これに対し、国では「クマ被害対策施策パッケージ」を公表しました。その柱の一つが「人の生活圏への出没防止」です。

これは出没後の対応に留まらず、平時からクマを寄せ付けない環境を整える「防除」の考え方を重視しています。具体的には、放任果樹管理や藪の除去といった「里山の保全管理」を推進して物理的にクマを遠ざける対策です。

私自身数年前、神社の床下に作られたミツバチの巣をクマが壊している姿を見つけ、大声をあげて後ずりしたことがありました。また、以前から山際の畑に植えた栗の木に、クマが枝を折った跡を見ることがありましたが、今年は柿の木の枝が折られ、渋い柿の実が一粒も残さず食べられた様子を見て驚きました。

今、私たちに求められているのは、里山の再生を通じた「棲み分け」の再構築により、「出没させない環境づくり」を進めることにあると思います。これまで身近で人身被害等もなく、季節の恵みを与えてくれた柿の木、剪定などの手入れもしてきた柿の木に愛着もありますが、「出没させない環境づくり」のため柿の木を切る決心をしました。



## 『ウルトラ5つの誓い』

福島県教育庁南会津教育事務所  
総務次長兼総務社会教育課長

加藤 洋

- 一つ、腹ペコのまま学校へ行かぬこと
  - 一つ、天気の良い日に布団を干すこと
  - 一つ、道を歩く時には車に気をつけること
  - 一つ、他人の力を頼りにしないこと
  - 一つ、土の上を裸足で走り回って遊ぶこと
- (1971年「帰ってきたウルトラマン」最終話のラストシーンより)

ある日、自宅でインターネット放送「ABEMA」を見ていたら、少年時代に夢中になって見ていた「帰ってきたウルトラマン」が放送されていた。

幼い時はウルトラマン・MAT(怪獣対策部隊)と怪獣・異星人とのバトルだけに注目していたが、大人になって作品を見返すと、主人公・郷秀樹の「人間としての成長ドラマ」も同時に描かれていたことに気付く。

怪獣の暴走により瓦礫の下敷きになりかけていた少年と子犬を庇って命を落とした郷の優しさと勇敢な心に感銘したウルトラマンが彼に自分の命と体を預けたことで「ウル

トラマン＝郷秀樹」が誕生するが、強靱な肉体と身体能力を得たことで生じた郷の驕りによる失敗や他の隊員との意見対立により彼は孤立する。そのたびに彼の夢であるカーレーサーの協力者であった坂田の叱咤・激励を受けて郷は立ち直り、MAT隊長は時折厳しさも見せながら郷の成長を見守り続けた。

その後、坂田や郷の婚約者である坂田の妹・アキとの悲しい別れを経験し、独りぼっちとなってしまった坂田の弟・次郎を引き取り「父親」としての役割も担った郷が最終話で地球以外の星を救う使命を受けて地球を離れる際に再び独りになってしまう次郎に「強くあれ」と宣誓させたのが「ウルトラ5つの誓い」である。

「朝食の大切さ」「睡眠」「危険察知力」「自己解決力」「健康・体力づくり」

誓いの文句一つ一つを見れば滑稽な気もするが、子供が成長する過程で必要なものが詰まっているし、「父親」としての郷秀樹の思いも溢れた中身となっている。